

エコアクション21 2023年度 環境経営レポート



対象期間 (2023年2月～2024年1月)



 山田車体工業株式会社

作成日 2024年 7月5日

— 目次 —

1. 環境方針	2
2. 組織の概要	3
3. エコアクション21実施体制	4
4. 環境目標	5~7
5. 環境活動結果と評価及び次年度の取組内容	8~9
6. 環境活動実績表	10~13
7. 環境活動取組内容	14~15
8. 環境関連法規等の遵守状況	16
9. 環境関連法規等への違反訴訟の有無	16
10. 代表者による全体評価と見直し・指示	17

1. 環境経営方針

経営理念

当社は「お客様の要望に応じて、確かな品質の使い易い製品を生産し、地域社会・物流社会に貢献することである」の企業理念のもと、地域社会の一員として自然環境保護、さらには地球環境保護に積極的に取り組むことにより社会に貢献できる企業を目指します。

(環境経営方針)

○経営重点方針

- (1) 「安全第一」の考えと行動の徹底
- (2) ボデー業界の需要変動への準備、心構え
- (3) 製造原価の的確な把握と改善
- (4) 「安定受注確保」のための「営業力」と「営業基盤」の強化
- (5) 「生産効率の向上」による「生産能力強化」と「コストダウン」
- (6) 不具合、ミス・ロス、トラブルの撲滅
- (7) 「当社ならではの得意科目」をつくり、高品質で、速く、安くつくる
- (8) 設計力、開発力、顧客ニーズ対応力の強化
- (9) 材料、部品の市況等を的確に把握した適時、適切な資材調達
- (10) 有能な人材の確保と育成

○環境基本方針

上記の経営重点方針を踏まえ、下記「環境基本方針」に沿った業務の推進を通じ、環境への貢献、環境負荷の低減を継続的に目指します。

1. 環境マネジメントシステムの構築を図り、その適切な運用により環境保護に結びつくよう、継続的な改善を目指します。
2. 当社が行う事業活動に於いて、環境に影響を及ぼす要因の中で、次のことを重点テーマとして取り組みます。
 - ① 二酸化炭素排出量の削減
 - ② 工場廃棄物排出量の削減
 - ③ 節水への取り組み
 - ④ 化学物質排出量の削減
 - ⑤ 環境に優しいトラックボデー造り
3. 環境に関する法律、規制及び組織が認める外部からの要求事項を厳守します。
4. 従業員への環境教育を実施し、環境方針の理解と環境に関する意識向上を図ります。

制定年月日 2006年 11月1日
改訂年月日 2018年 2月1日

山田車体工業株式会社

代表取締役社長 山田 和典

2. 組織の概要

① 事業所名及び代表者

事業所名 山田車体工業株式会社 代表者名 代表取締役社長 山田 和典



木骨キャブ
2006年10月に
独立行政法人「国立科学博物館」
産業技術資料に登録

② 所在地

工場名 住所
本社沼津工場 静岡県沼津市松長字改正600
仙台工場 宮城県富谷市三ノ関68-3
水戸工場 茨城県東茨城郡茨城町長岡3652-85
神奈川工場 神奈川県愛甲郡愛川町中津6789-1
仙台日の出町工場 宮城県仙台市宮城野区日の出町1-4-15

③ 責任者及び担当者

環境管理統括責任者
本社沼津工場 製造推進部 部長 酒井 安広

環境管理責任者
本社沼津工場 安全環境課課長 酒井 安広
仙台工場 工場長 根本 敏昭
水戸工場 工場長 根本 敏昭
神奈川工場 工場長 眞下 智樹
仙台日の出町工場 仙台工場長 根本 敏昭

環境管理担当者
安全環境課担当課長 仁田 英徳
総務課 乙黒 敏浩
製造課主任 福田 淳一
工場長 眞下 智樹
総務課 乙黒 敏浩

④ 連絡先

本社沼津工場 安全環境課 仁田 英徳
TEL: 055-966-0815 FAX: 055-966-7474 E-mail: shisetsu@yamada-body.co.jp

⑤ 事業の内容

輸送用機械器具製造業 自動車車体製造(トラック部門)

⑥ 事業年度

2月～翌年1月

⑦ 事業規模



フラップボデー

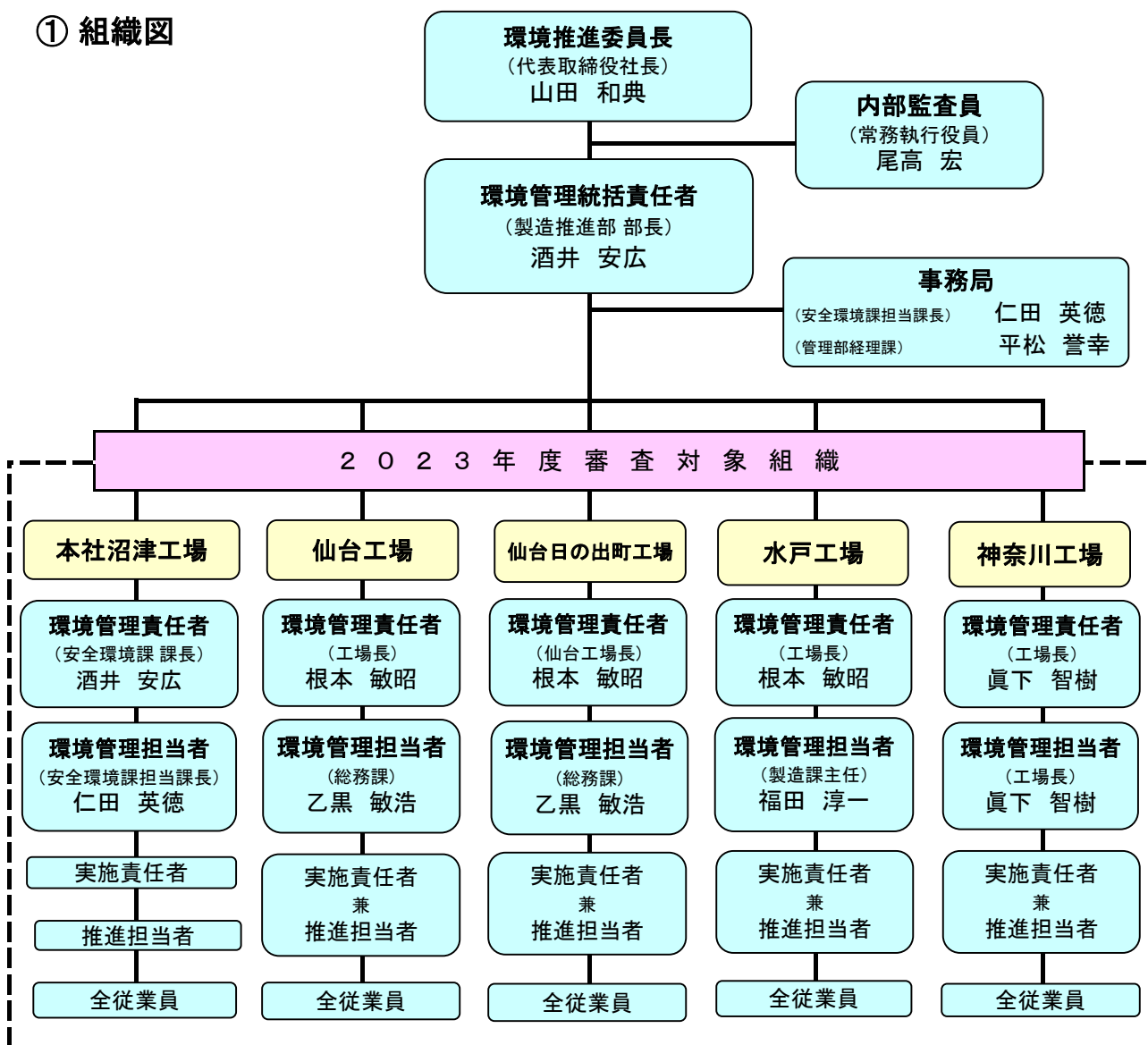
工場名	事業規模	単位	63期	64期	65期	66期	67期	68期
			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
本社沼津工場	新車の生産台数	台	287	309	296	283	204	225
	社員数	人	98	102	109	104	101	108
	延べ床面積	m ²	15,720	15,720	15,720	15,720	15,720	15,720
仙台工場	新車の生産台数	台	371	348	348	312	241	262
	社員数	人	97	95	95	95	98	99
	延べ床面積	m ²	6,223	6,223	6,223	6,223	6,223	6,223
水戸工場	新車の生産台数	台	155	179	191	183	158	165
	社員数	人	37	40	42	42	44	44
	延べ床面積	m ²	3,373	3,373	3,373	3,373	3,373	3,373
神奈川工場 ※	新車の生産台数	台	0	0	0	1	0	0
	社員数	人	5	7	6	10	6	5
	延べ床面積	m ²	839	839	839	839	839	839
仙台日の出町工場 ※	新車の生産台数	台	5	7	6	0	1	1
	社員数	人	5	3	4	4	5	3
	延べ床面積	m ²	972	972	972	972	972	972

※新車生産を主としていない。

【数値は各年度の1月21日時点のもの】

3. エコアクション21実施体制

① 組織図



② 役割分担

組織名称	役割・責任
環境推進委員長 (代表取締役社長)	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の作成 経営における課題とチャンスの明確化 経営資源の準備 環境管理責任者の任命 全体の評価と見直し
内部監査員	<ul style="list-style-type: none"> 内部監査の実施 関連書類の確認
環境管理統括責任者	<ul style="list-style-type: none"> 全体の構築、運用 事務局の取りまとめ、監督、指導、管理 代表者への報告
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境活動実施報告の管理 活動情報の掲示 環境経営レポートの作成 実施責任者、推進担当者への情報伝達 関連書類及び記録の作成 各数値、データの記録 事務局会議の運営
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 事務局会議の開催 取組状況の確認及び問題の是正 環境関連法規制等の取りまとめ 環境目標、活動計画の確認
環境管理担当者	<ul style="list-style-type: none"> 関連文書の記録、管理及び報告 事務局への関連書類、活動報告
実施責任者	<ul style="list-style-type: none"> 各部署の統括 環境活動計画の実施監督 環境活動計画の進捗管理 推進担当者への助言
推進担当者	<ul style="list-style-type: none"> 環境活動の実施 環境活動実施状況の報告 活動に対する意見 環境活動計画の構築
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 決められた事を守り、自主的、積極的に環境活動の参加

4. 環境経営目標

① 二酸化炭素排出量の削減

環境経営目標(年次目標)

2021年度実績(売上高比)を基準とし2%の削減目標とする。

環境経営目標(中期目標)

2021年度実績(売上高比)を基準とし中期期間(3年間)で毎年1% 2025年度で4%削減目標とする。

工場名	項目	年次目標	年次実績		中期目標(単位: kg・CO2/百万円)	
		2023年度	2021年度	2022年度	2024年度	2025年度
		2021年度比 (-2%)	基準年度	基準年度比 (-1%)	基準年度比 (-3%)	基準年度比 (-4%)
本社沼津工場	電気 ※1	208.35	212.60	217.12	206.22	204.09
	灯油 ※2	2.93	2.99	3.17	2.90	2.87
	都市ガス	10.06	10.27	8.78	9.96	9.86
	ガソリン	11.38	11.61	12.53	11.26	11.15
	軽油	28.80	29.41	32.14	28.53	28.23
	二酸化炭素	261.52	266.88	273.74	258.87	256.20
仙台工場	電気 ※1	129.30	131.94	127.42	127.98	126.66
	灯油 ※2	0.60	0.61	1.03	0.59	0.59
	LPG	41.64	42.49	41.64	41.22	40.79
	重油	11.15	11.38	9.91	11.04	10.92
	ガソリン	7.61	7.77	9.49	7.54	7.46
	軽油	14.81	15.11	13.10	14.66	14.51
二酸化炭素	205.11	209.30	202.59	203.02	200.93	
水戸工場	電気 ※1	147.72	150.73	153.61	147.72	146.21
	灯油 ※2	36.46	12.72	26.58	12.47	12.34
	LPG	130.36	133.02	116.25	130.36	129.03
	ガソリン	16.38	16.71	33.02	16.38	16.21
	軽油	38.32	39.10	29.33	38.32	37.93
	二酸化炭素	369.24	352.28	358.79	345.25	341.72
神奈川工場	電気 ※1	230.14	234.84	230.29	227.79	225.45
	灯油 ※2	3.86	2.06	2.40	2.00	1.98
	LPG	0.57	0.63	0.77	0.61	0.60
	ガソリン	158.88	188.53	187.51	182.87	180.99
	軽油	16.71	36.23	14.94	35.14	34.78
	二酸化炭素	410.16	462.29	435.91	448.42	448.42
仙台 日の出町工場	電気 ※1	164.74	168.10	211.87	163.06	161.38
	灯油	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	LPG	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	ガソリン	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	軽油	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	二酸化炭素	164.74	168.10	211.87	163.06	161.38

※1 電気の二酸化炭素排出量は各工場以下の電力事業者の調整排出係数より算出している。

本社沼津工場 (日本テクノ(株) 調整排出係数)二酸化炭素排出量(kg-CO2)=使用量×0.485

仙台工場 (大和ハウス工業 調整排出係数)二酸化炭素排出量(kg-CO2)=使用量×0.448

水戸工場 (日本テクノ 調整排出係数)二酸化炭素排出量(kg-CO2)=使用量×0.485

(東京電力 調整排出係数)二酸化炭素排出量(kg-CO2)=使用量×0.441

神奈川工場 (日本テクノ 調整排出係数)二酸化炭素排出量(kg-CO2)=使用量×0.485

仙台日の出町工場 (東北電力 調整排出係数)二酸化炭素排出量(kg-CO2)=使用量×0.457

※2. 灯油は従来、使用量が少なく目標値を設定しなかったが、寒冷地域の冬季作業環境改善で暖房機器増設による使用量増加のため、当年度から目標値を設定する。

② 廃棄物排出量の削減

環境経営目標(年次目標)

2021年度実績(売上高比)を基準とし2%の削減目標とする。

環境経営目標(中期目標)

2021年度実績(売上高比)を基準とし中期期間(3年間)で毎年1% 2024年度で4%削減目標とする。

工場名	年次目標	年次実績		中期目標	
	2023年度	2021年度	2022年度	2024年度	2025年度
	2021年度比 (-2%)	基準年度実績	実績	基準年度 (-3%)	基準年度 (-4%)
本社沼津工場	35.85	36.58	44.96	35.48	35.12
仙台工場	23.28	23.75	22.30	23.04	22.80
水戸工場	53.78	54.88	65.00	53.23	52.68
神奈川工場	45.01	45.90	30.55	44.52	44.06
仙台日の出町工場	41.13	41.97	37.20	40.71	40.29

③ 節水への取組み

環境経営目標(年次目標)

2021年度実績(売上高比)を基準とし2%の削減目標とする。

環境経営目標(中期目標)

2021年度実績(売上高比)を基準とし中期期間(3年間)で毎年1% 2024年度で4%削減目標とする。

工場名	年次目標	年次実績		中期目標	
	2023年度	2021年度	2022年度	2024年度	2025年度
	2021年度比 (-2%)	基準年度実績	実績	基準年度 (-3%)	基準年度 (-4%)
本社沼津工場	* 10.00	20.70	18.52	9.70	9.60
仙台工場	0.43	0.44	0.49	0.43	0.42
水戸工場	0.45	0.46	0.42	0.45	0.44
神奈川工場	0.74	0.75	0.85	0.73	0.72
仙台日の出町工場	0.67	0.68	0.94	0.66	0.65

* 本社沼津工場は、自噴水利用につき、管理対象から除外する。

④ 化学物質排出量の削減

環境経営目標(年次目標)

2021年度実績(売上高比)を基準とし2%の削減目標とする。

環境経営目標(中期目標)

2021年度実績(売上高比)を基準とし中期期間(3年間)で毎年1% 2024年度で4%削減目標とする。

工場名	年次目標	年次実績		中期目標	
	2023年度	2021年度	2022年度	2024年度	2025年度
	2021年度比 (-2%)	基準年度実績	実績	基準年度 (-3%)	基準年度 (-4%)
本社沼津工場	4.72	4.82	5.19	4.68	4.63
仙台工場	6.25	6.38	5.50	6.19	6.12
水戸工場	5.05	5.15	4.96	5.00	4.94
神奈川工場	0.89	0.91	1.08	0.88	0.87
仙台日の出町工場	1.25	1.28	3.04	3.01	2.98

⑤環境に優しいトラックボデー造り

(1)環境負荷物質の削減

環境経営目標(年次目標)

環境負荷物質の削減に向け部品・部材管理システムの活用をする

環境経営目標(中期目標)

管理システムを運用し、明確化、簡素化を図る。

車体工業会の環境負荷物質フリー宣言時に於ける対象外の不適合や未確認品の50%削減を図る。

全工場	年次目標		年次実績		中期目標 単位:件	
	2022年度 実績件数	2023年度目標 2022年度(50%)	2021年度 基準年度	2022年度 2021年度(50%)	2024年度 基準年度(0%)	2025年度 基準年度(0%)
	136	68	337	144	0	0

(2)軽量化の実施

	項目	工場名	年次目標	年次実績	実績	中期目標	
			2023年度	2021年度	2022年度	2024年度	2025年度
1	高張力鋼板の使用による軽量化	本社 沼津工場 仙台工場 水戸工場	普及	一部実用化	普及	普及	普及
2	ルーフの軽量化 (Cサンドイッチパネル)	仙台工場	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施
		本社 沼津工場	一部実用化	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施

【本社沼津工場・仙台工場・水戸工場】
耐摩耗鋼の採用 高強度構造用鋼の採用



【仙台工場】
軽量素材を使用したフラップボデー



(3)塗料の改善実施

	項目	工場名	年次目標	年次実績		中期目標	
			2023年度	2021年度	2022年度	2024年度	2025年度
1	※特化則対象物質 非含有塗料の採用	本社 沼津工場	継続実施	13台実施	11台実施	継続実施	継続実施
2	有機溶剤を含まない 防錆塗料(水性塗料) 採用	本社 沼津工場	継続実施	採用テスト	9台実施	継続実施	継続実施
		水戸工場	継続実施	採用テスト	18台実施	継続実施	継続実施

※PRTR法対応・特定化学物質障害予防規則の対象物質非含有環境型塗料

5. 環境経営計画と評価及び次年度の取組内容

(取組期間: 2023年2月～2024年1月)

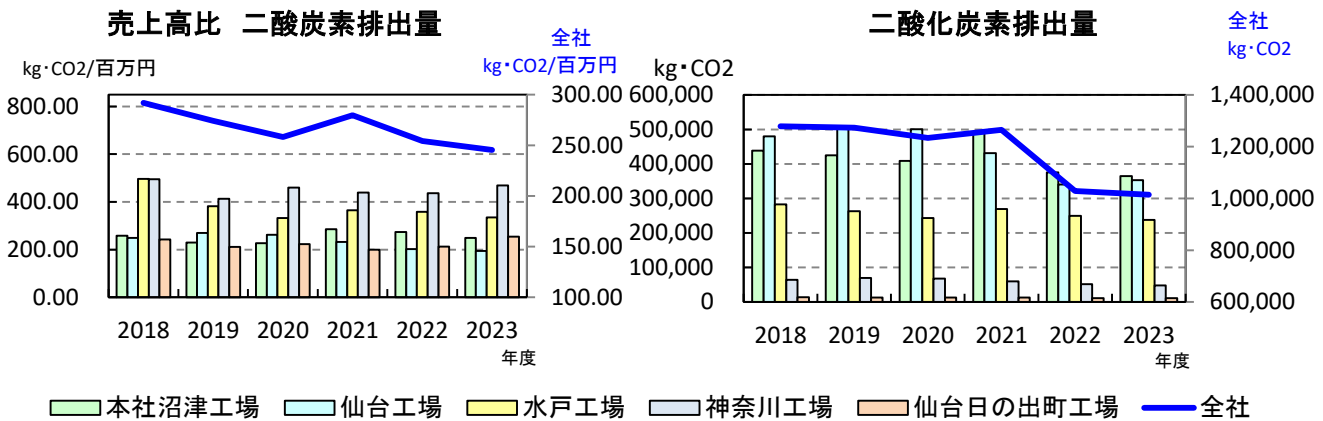
環境経営項目		評価					コメント	今後の取組内容
		沼津	仙台	水戸	神奈川	日出		
電気	目標値に対する評価	○	○	△	×	×	【達成率】 沼津 106 %	継続して実施する。 【仙台日の出町工場】 ・シャシ供給環境の悪化の影響を受けて生産が落込み、電気の使用量も2021年度比で4.5%減少したが、売上高減少が上回り、原単位で大幅な未達成となった。
	節電シールの貼付け	○	○	○	○	○	仙台 104 %	
	不必要な照明はこまめに消す	○	○	○	○	○	水戸 99 %	
	未使用設備の電源OFF (製造設備・OA機器・他)	○	○	○	○	○	神奈川 78 %	
	エアコンフィルターの定期清掃 (夏冬年2回)	○	○	○	○	○	仙台日の出町 50 %	
	高効率照明の採用(LED照明等)	○	○	○	○	○		
	設備更新時のインバーター化推進	—	—	—	—	—		
	コンプレッサーのエア漏れチェックと整備	○	○	○	○	—		
都市ガス・LPG	目標値に対する評価	○	○	○	×	—	【達成率】 沼津 153 %	継続して実施する。 【神奈川工場】 ・LPガスはフォークリフト専用で特殊な使用状況ではない。神奈川工場CO2排出量の約0.3%と構成比は少ないが、外部環境の影響で二次架装の受注減少により売上高に影響し、達成率は悪化した。
	使用状況の調査・問題点の抽出	○	○	—	—	—	仙台 120 %	
	ガス漏れ点検	○	○	○	○	—	水戸 126 %	
	乾燥設備の点検	○	○	○	—	—	神奈川 -42 %	
	自然乾燥の増加	○	○	—	—	—		
	乾燥設備の換気フィルター清掃	○	○	○	—	—		
	フォークリフトの省エネ運転励行	○	○	○	○	—		
ガソリン	目標値に対する評価	×	×	×	×	—	【達成率】 沼津 63 %	継続して実施する。 ・新規顧客獲得により売上高を向上させ、より一層工場の稼働を高めて、効率化に繋げる。 ・工場間の連携を高めて相乗効果で製造効率を図る。 ・時期を見てより低燃費車両に切替えていく。
	効率的なルートによる営業活動	○	○	○	○	—	仙台 37 %	
	不必要なアイドリングはしない	○	○	○	○	—	水戸 16 %	
	不要な荷物を積まない	○	○	○	○	—	神奈川 94 %	
	急急進・急加速の禁止	○	○	○	○	—		
	タイヤの空気圧チェックの実施	○	○	○	○	—		
							各工場共通要因 ・新規顧客獲得のため営業対象区域を拡大したことで営業車の燃料が増加した。 ・工場間の連携頻度が高まり、社用車利用による燃料が増加した。	
軽油	目標値に対する評価	△	○	○	○	—	【達成率】 沼津 97 %	継続して実施する。 【本社沼津工場】 距離により適正な使用量にしていく。
	納車時の早期出発	○	○	○	—	—	仙台 117 %	
	給油量の見直し(年1回)	○	○	○	○	—	水戸 115 %	
	納車時の省エネ運転励行	○	○	○	○	—	神奈川 112 %	
	フォークリフトの省エネ運転励行	○	○	○	—	—	【本社沼津工場】 上期に、遠方の納車先が多く使用量が増加した。	
備考	① 取組期間の評価は2022年2月～2023年1月までの実績評価である。							
	② 評価判定は○・△・×の3段階で行なった。							
	○ 目標値を達成 又は 活動が概ね計画通り実施できた。							
	△ 目標値の95%～100%未満 又は 活動が一部計画通り実施できなかった。							
× 目標値の95%未満 又は 活動が実施できなかった。								
③ 活動計画の見直しは、2022年度が終了した時点で行なう。								

環境経営項目		評価					コメント	今後の取組内容
		沼津	仙台	水戸	神奈川	日出		
廃棄物の削減	目標値に対する評価	△	×	○	○	-	【達成率】 沼津 98% 仙台 31% 水戸 101% 神奈川 198% 日の出町 85% 【仙台工場】 要因①薪ストーブ老朽化による処分、燃料としていた木くず排出の増加による。 要因②塗装設備水洗ブースの定期的清掃による汚泥排出による。 【仙台工場】 ①従来、薪ストーブの燃料に使用していた木くずの量を見越した排出量の目標設定と管理を行う。 ②塗装ブースの定期的清掃に伴う汚泥排出の目標設定と管理を行う。	継続して実施する。
	分別の徹底	○	○	○	○	-		
	廃シナーの再生利用	○	○	-	○	-		
	パレットの返却による再利用	○	○	○	○	-		
	梱包材の再利用	○	○	○	○	-		
	ムダの出ない資材発注 (カット購入・定尺寸法見直し)	○	○	○	○	-		
	材料のムダ削減 (ミスロスの削減・端材利用)	○	○	○	○	-		
水使用量の削減	目標値に対する評価	×	×	○	×	×	【達成率】 沼津 23% 仙台 95% 水戸 111% 神奈川 81% 日の出町 34% 【本社沼津工場】 シャシ入庫不安定による滞留長期化で洗車が増え、水使用量が増加した。設備の問題では上水管、消火栓の老朽化による地中漏水と、給水ポンプ老朽化で常時オーバーフローの可能性。 【本社沼津工場】 シャシ入庫遅れは徐々に解消の見込みで、それにより洗車の負担は減少の見込。設備上の原因は老朽化要因と推定されるが、特定できていないため、漏水調査と設備更新を計画する。	継続して実施する。
	節水シールと使用状況のチェック	○	○	○	○	○		
	水漏れ点検の実施	○	○	○	○	○		
	自噴水の利用	○	-	-	-	-		
化学物質	目標値に対する評価	×	×	○	○	○	【達成率】 沼津 86% 仙台 88% 水戸 112% 神奈川 37% 日の出町 -114% 【仙台日の出町工場】 2月～6月の間に仙台工場の応援として塗装作業を行ったことで排出量が増加した。(仙台工場の約3%弱の使用量) 【仙台日の出町工場】 一時的な仙台工場の応援であり、通常は修理にのみ使用するため、特に是正しない。	継続して実施する。
	SDSの入手・適正管理	○	○	○	○	-		
	有害性の少ない材料への転換	○	○	○	○	-		
	エコシナー使用率の向上	○	○	○	○	-		
環境にやさしいトラックボデー造り	目標値に対する評価	○	-	-	-	-	【達成率】 沼津 100% 目標50%減に対し100%入手。 実施済み。 データベースの有効活用。 実績 沼津工場:7台 仙台工場:21台 水戸工場:55台 実績 仙台工場:33台 実績 仙台工場:33台 実績 沼津工場:22台 水戸工場:26台	継続して実施する。 継続して実施する。 継続して実施する。 継続して実施する。
	購入部品・部材のエビデンス入手	○	-	-	-	-		
	環境負荷物質非含有品への代替え	○	○	○	○	○		
	環境負荷物質のシステム管理	○	-	-	-	-		
	ボデーの軽量化 (耐摩耗鋼、高強度構造用鋼採用)	○	○	○	-	-		
	内製サンドイッチパネルによる冷凍車の軽量化	-	○	-	-	-		
	内製サンドイッチパネルによる冷凍車の軽量化	-	○	-	-	-		
	有機溶剤を含まない防錆塗料(水性塗料)の採用	○	-	○	-	-		

6. 環境経営実績表

① 二酸化炭素排出量

項目	工場名	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
売上高比	本社沼津工場	kg・CO2 /百万円	257.64	228.69	226.96	285.27	273.75	249.26
	仙台工場		249.47	269.26	261.29	231.69	202.59	194.50
	水戸工場		495.86	382.01	332.72	365.24	358.80	334.28
	神奈川工場		495.44	412.94	459.89	438.87	435.91	469.08
	仙台日の出町工場		242.09	210.94	222.26	198.87	211.87	254.00
	全社		291.86	274.19	258.08	279.62	254.28	245.38
排出量	本社沼津工場	kg・CO2	438,354	424,980	409,080	490,454	375,596	364,471
	仙台工場		479,832	502,509	500,573	431,510	340,679	352,650
	水戸工場		282,799	262,973	243,027	269,456	249,260	238,152
	神奈川工場		63,999	69,453	67,958	59,914	51,085	48,016
	仙台日の出町工場		13,765	13,055	13,227	13,220	11,446	10,969
	全社合計		1,278,749	1,272,970	1,233,865	1,264,554	1,028,066	1,014,258



(1) 電気使用量

項目	工場名	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
売上高比	本社沼津工場	kg・CO2 /百万円	203.29	184.74	177.72	231.01	217.12	195.78
	仙台工場		168.04	163.53	165.72	154.32	127.42	123.65
	水戸工場		227.34	157.24	124.14	163.69	153.61	148.59
	神奈川工場		334.23	199.20	228.13	255.18	230.29	280.18
	仙台日の出町工場		242.09	210.96	218.79	194.21	211.87	246.36
使用量	本社沼津工場	kwh	691,751	705,821	733,334	753,627	646,503	590,248
	仙台工場		571,606	527,079	548,346	548,515	508,986	532,505
	水戸工場		224,460	220,862	207,237	229,553	226,330	218,377
	神奈川工場		86,350	79,297	77,276	66,104	58,481	59,133
	仙台日の出町工場		25,257	23,955	23,891	24,452	25,047	23,307

本社沼津工場 (鈴与商事 調整排出係数)二酸化炭素排出量(kg-CO2)=使用量X0.459
 (東京電力 調整排出係数)二酸化炭素排出量(kg-CO2)=使用量X0.441
 (日本テクノ 調整排出係数)二酸化炭素排出量(kg-CO2)=使用量X0.485

仙台工場 (大和ハウス工業 調整排出係数)二酸化炭素排出量(kg-CO2)=使用量×0.421

水戸工場 (鈴与商事 調整排出係数)二酸化炭素排出量(kg-CO2)=使用量X0.459
 (東京電力 調整排出係数)二酸化炭素排出量(kg-CO2)=使用量X0.441
 (日本テクノ 調整排出係数)二酸化炭素排出量(kg-CO2)=使用量X0.485

神奈川工場 (鈴与商事 調整排出係数)二酸化炭素排出量(kg-CO2)=使用量X0.459
 (東京電力 調整排出係数)二酸化炭素排出量(kg-CO2)=使用量X0.411
 (日本テクノ 調整排出係数)二酸化炭素排出量(kg-CO2)=使用量X0.485

仙台日の出町工場 (東北電力 調整排出係数)二酸化炭素排出量(kg-CO2)=使用量×0.457

(2) 化石燃料使用量
灯油使用量

項目	工場名	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
売上高比	本社沼津工場	kg・CO2 /百万円	3.37	3.21	3.11	2.99	3.17	3.53
	仙台工場		1.14	0.71	0.76	0.61	1.03	4.46
	水戸工場		8.56	4.38	5.98	12.72	26.58	26.91
	神奈川工場		2.08	2.33	2.08	3.94	2.40	3.95
	仙台日の出町工場		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
使用量	本社沼津工場	ℓ	2,304	2,396	2,257	2,066	1,746	2,070
	仙台工場		881	535	586	460	696	3,244
	水戸工場		1,959	1,210	1,755	3,770	7,417	7,698
	神奈川工場		108	157	124	216	113	162
	仙台日の出町工場		0	0	0	0	0	0

※ 二酸化炭素排出量(kg・CO2)=使用量×2.49

都市ガス使用量

項目	工場名	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
売上高比	本社沼津工場	kg・CO2 /百万円	8.12	4.46	4.88	10.27	8.78	4.76
使用量		m ³	6,555	3,933	4,083	8,175	5,580	3,220

※ 二酸化炭素排出量(kg・CO2)=使用量×2.16

LPG使用量

項目	工場名	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
売上高比	仙台工場	kg・CO2 /百万円	39.64	56.89	58.82	42.49	41.64	33.38
	水戸工場		176.77	154.84	140.34	133.02	116.25	96.05
	神奈川工場		1.84	1.37	1.24	0.58	0.77	1.38
使用量	仙台工場	kg	25,397	35,366	37,535	26,378	23,340	20,161
	水戸工場		33,584	35,509	34,145	32,712	26,920	22,809
	神奈川工場		79	77	61	27	30	67

※ 二酸化炭素排出量(kg・CO2)=使用量×3.00

重油使用量

項目	工場名	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
売上高比	仙台工場	kg・CO2 /百万円	13.26	12.11	11.21	11.38	9.91	10.12
使用量		ℓ	9,410	8,340	7,719	7,820	6,150	6,769

※ 二酸化炭素排出量(kg・CO2)=使用量×2.71

ガソリン使用量

項目	工場名	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
売上高比	本社沼津工場	kg・CO2 /百万円	9.14	7.47	9.93	11.61	12.53	15.58
	仙台工場		10.46	8.86	9.26	7.77	9.48	10.61
	水戸工場		24.87	23.14	21.26	16.71	33.02	30.12
	神奈川工場		102.08	146.65	190.44	162.12	187.51	168.93
使用量	本社沼津工場	ℓ	6,697	5,981	7,712	8,606	7,413	9,818
	仙台工場		8,666	7,125	7,642	6,240	6,873	8,289
	水戸工場		6,109	6,862	6,689	5,313	9,886	9,250
	神奈川工場		5,680	10,603	12,142	9,540	9,472	7,453

※ 二酸化炭素排出量(kg・CO2)=使用量×2.32

軽油使用量

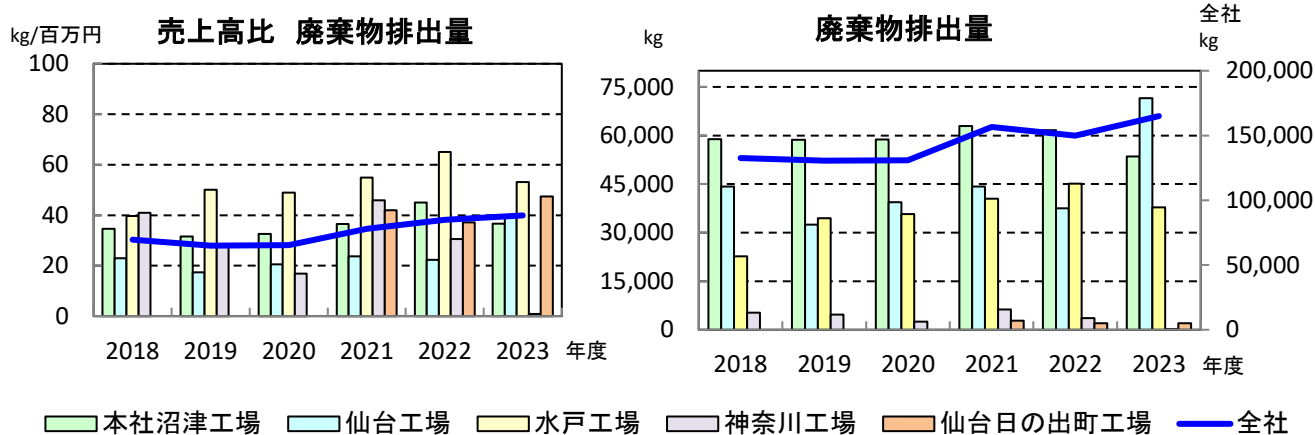
項目	工場名	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
売上高比	本社沼津工場	kg・CO2 /百万円	33.72	28.81	30.82	29.39	32.14	29.62
	仙台工場		16.93	27.16	15.81	15.11	13.10	12.32
	水戸工場		58.31	42.4	41.00	39.10	29.33	33.18
	神奈川工場		55.2	32.44	36.60	17.05	14.94	14.65
	仙台日の出町工場		—	—	3.47	4.66	0.00	4.77
使用量	本社沼津工場	ℓ	21,860	20,399	21,520	19,583	17,093	16,788
	仙台工場		12,409	19,315	11,540	10,907	8,539	8,656
	水戸工場		12,673	11,123	11,412	11,181	7,898	9,007
	神奈川工場		2,717	2,091	2,098	902	679	581
	仙台日の出町工場		—	—	80.00	120	0	80

※ 二酸化炭素排出量(kg・CO2)=使用量×2.58

② 廃棄物排出量

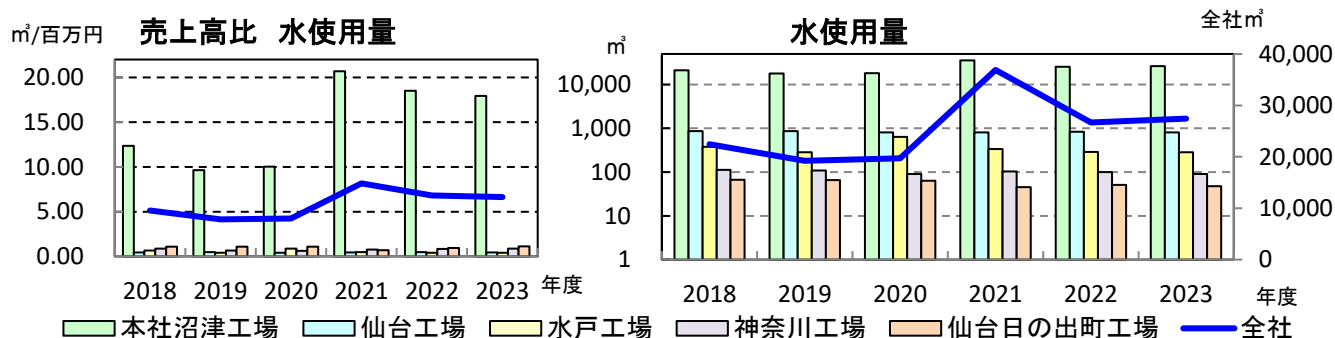
項目	工場名	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
売上高比	本社沼津工場	kg/百万円	34.62	31.56	32.6	36.58	44.96	36.62
	仙台工場		23	17.39	20.55	23.75	22.30	39.43
	水戸工場		39.69	50.06	48.92	54.88	65.00	53.08
	神奈川工場		40.9	27.93	16.8	45.90	30.50	0.90
	仙台日の出町工場		※0	※0	※0	41.97	37.2	47.42
	全社		30.29	27.94	28.11	34.64	38.12	39.91
排出量	本社沼津工場	kg	58,896	58,656	58,790	62,888	61,688	53,544
	仙台工場		44,235	32,460	39,360	44,240	37,500	71,485
	水戸工場		22,634	34,464	35,734	40,484	45,156	37,812
	神奈川工場		5,285	4,725	2,490	6,270	3,580	90
	仙台日の出町工場		※0	※0	※0	2,790	2,010	2,050
	全社合計		132,710	130,565	130,910	156,672	149,934	164,981

※2018、2020年度は仙台工場へ取りまとめて排出をした為、実績なし。



③ 水使用量

項目	工場名	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
売上高比	本社沼津工場	m ³ /百万円	12.36	9.63	10.03	20.70	18.52	17.92
	仙台工場		0.45	0.46	0.42	0.44	0.49	0.45
	水戸工場		0.66	0.42	0.87	0.46	0.42	0.40
	神奈川工場		0.87	0.64	0.61	0.75	0.85	0.88
	仙台日の出町工場		—	1.07	1.07	0.68	0.94	1.11
	全社		5.12	4.14	4.23	8.16	6.81	6.64
使用量	本社沼津工場	m ³	21,025	17,900	18,088	35,592	25,404	26,210
	仙台工場		870	861	811	813	831	813
	水戸工場		379	286	632	337	291	285
	神奈川工場		113	108	91	103	100	90
	仙台日の出町工場		—	66	64	45	51	48
	全社合計		22,454	19,221	19,686	36,890	26,677	27,446

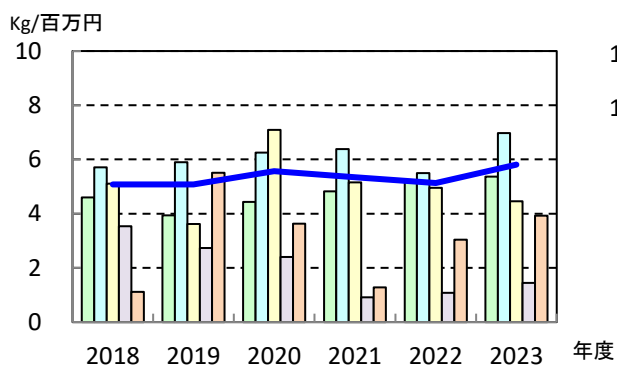


④ 化学物質排出量

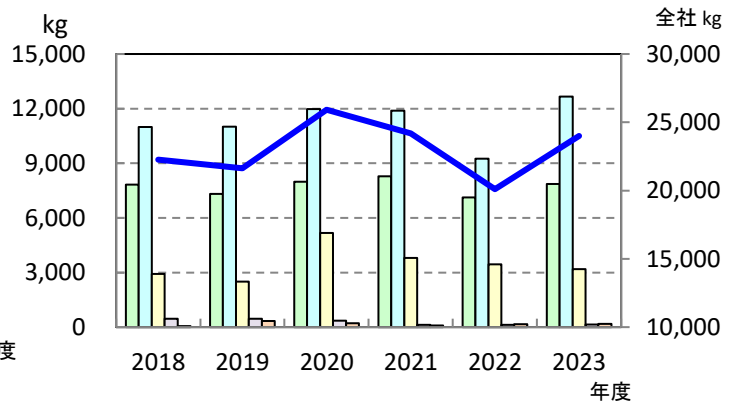
項目	工場名	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
売上高比	本社沼津工場	kg/百万円	4.60	3.94	4.43	4.82	5.19	5.37
	仙台工場		5.71	5.90	6.25	6.38	5.50	6.98
	水戸工場		5.11	3.62	7.09	5.15	4.96	4.46
	神奈川工場		3.54	2.74	2.40	0.91	1.08	1.45
	仙台日の出町工場		1.12	5.51	3.63	1.28	3.04	3.93
	全社		5.08	5.08	5.57	5.35	5.13	5.81
排出量	本社沼津工場	kg	7,830	7,323	7,987	8,291	7,120	7,857
	仙台工場		10,988	11,011	11,974	11,886	9,246	12,653
	水戸工場		2,913	2,492	5,180	3,801	3,444	3,179
	神奈川工場		457	463	355	124	127	148
	仙台日の出町工場		64	341	216	85	164	170
	全社合計		22,252	21,630	25,919	24,187	20,101	24,007

※ 化学物質排出量は購入量から算出しています。

売上高比 化学物質排出量



化学物質排出量



■ 本社沼津工場 ■ 仙台工場 ■ 水戸工場 ■ 神奈川工場 ■ 仙台日の出町工場 ■ 全社

7. 環境活動取組内容



【仙台工場】社会貢献 団体献血
12月16日出張献血バスにて
献血の協力をしました。



【本社沼津工場】地域周辺の清掃活動

11月16日に会社周辺を部署ごとにエリアを
分けて清掃活動をしました。



【本社沼津工場】9月1日防火訓練



【本社沼津工場】
カートリッジをまとめてリサイクル工場へ



【仙台工場】
【仙台日の出町工場】
12月8日
合同防火訓練



【水戸工場】社会貢献 工場見学

11月21日に地元の小学生の工場見学に協力しました。



【水戸工場】社会貢献 地域清掃

6月12日に地域清掃を行いました。



【本社沼津工場】社会貢献

使用済み切手回収運動への参加

日本キリスト協海外医療協力会に送っています。

使用済み切手5,000枚でタンザニアの看護学校の約1年分の教科書代になります。

【本社沼津工場】社会貢献

エコキャップ運動への参加

エコキャップ推進協会へ送っています。

キャップの素材であるポリプロピレンのリサイクル促進。

キャップをゴミとして焼却しないことでCO2の削減。売却益で発展途上国の医療支援。回収したキャップの異物除去作業への雇用創出。と、社会貢献に役立っています。



8. 環境関連法規等の遵守状況

主な摘要法規	適用内容	遵守評価				
		本社 沼津工場	仙台工場	水戸工場	神奈川工場	仙台 日の出町工場
大気汚染防止法	一般粉じん発生施設の届出(設置・変更・廃止時)	○	○	—	—	—
水質汚濁防止法	特定施設の届出(設置・変更・廃止時)	○	○	○	—	—
騒音規制法	特定施設の届出(設置・変更・廃止時)	○	○	○	—	—
振動規制法	特定施設の届出(設置・変更・廃止時)	○	○	○	—	—
神奈川県条例※	指定事業所の届出(設置・変更・廃止時)	—	—	—	○	—
公害防止法	公害防止管理者の選任 (騒音・振動による特定工場がある場合)	—	—	—	—	—
PRTR法	特定化学物質の報告書提出 (特定化学物質の年間取扱量が1t以上の場合)	○	○	○	—	—
廃棄物処理法	マニフェストの交付・保存	○	○	○	○	○
家電リサイクル法	特定家庭用機器廃棄時の適正な処理	○	—	—	—	—
フロン排出抑制法	フロン使用機器廃棄時の適正な処理	○	○	○	○	○
消防法	危険物施設の届出(設置・変更・廃止時) 防火管理者の選任	○	○	○	○	—
労働安全衛生法	作業環境測定 定期・特殊健康診断の実施	○	○	○	○	○
その他要求事項	車輛法保安基準の遵守	○	○	○	○	○
	車工会における環境負荷物質自主取り組み基準	○	○	○	○	○

※神奈川県生活環境の保全に関する条例

9. 環境関連法規等への違反訴訟の有無

環境関連法規への遵守状況確認の結果、違反はありませんでした。

また、関係機関からの違反指摘や利害関係者からの訴訟等は各工場共、過去3年間ありませんでした。

10. 代表者による全体評価と見直し・指示

(1) 全体評価

1) 環境への取組が適切に実施されているか

二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、水使用量、また化学物質排出量の削減等については、適切に取組が行われています。

また、「環境に優しいトラックボデー造り」については、営業、技術、資材、製造等の全ての業務の中で、環境負荷物質を含有しない部品の使用や、軽量化、省エネ化を常に意識したボデー造りを行っています。

2) 環境経営システムが有効に機能しているか

システムについても問題なく機能しています。

(2) 指示内容

1) 環境経営方針

特に変更はありません。

2) 環境経営目標及び環境経営計画

特に変更はありません。

3) 実施体制

特に変更はありません。

CO2排出量については前年度の1,010,800kg-CO2から、3,458kg-CO2の減(-3.1%)となり、原単位当りでは、前年度の257.88kg-CO2/百万円から、12.5kg-CO2/百万円の減(-4.8%)となりました。前期と比べ、原単位当たりCO2排出量が僅かながら減少したのは、生産高が前年度比で約5%増加したことが主な要因です。

2021年度から続いた新型コロナ禍や、その後のロシアのウクライナ侵攻等を背景とした世界的なサプライチェーンの混乱による部品入手難等の影響でシャシメーカーのシャシ供給の遅れが恒常化したことや、特定シャシメーカーのエンジンデータの不正による出荷停止の影響等は、前期(2022年度)下期を底に徐々に改善されてきました。当社の各工場においても当期(2023年度)の後半から、以前よりも生産への計画的な対応が可能となり、手待ち、滞留、非効率的な挽回作業等のロスの削減が人員や設備の稼働に反映され、CO2排出削減に繋がったものと考えます。

しかしながら、全体の事業環境は、(1)原材料、また運賃、電力料等の諸経費の高止まり、(2)国内景気の停滞、積荷量の減少、燃料高等を背景としたトラック需要の低迷、等いまだ厳しい状況にあります。

弊社としては、今後の経済状況の回復も見据え、従来にも増して、ユーザーの様々なニーズに対応し、特徴あるボデーづくりを追求していくことにより、これを乗り切っていく所存です。

一方で、社内的には、生産効率の向上やムダの排除、人材育成等問題点と課題は各工場共に山積しており、まだまだ改善の途上にあります。これらを更に、着実に進めながら、売上高と利益の向上を図る一方で、EA21の環境経営システムを基盤とした、カーボンニュートラルへの取組み等も併せ進めていくことが重要と考えています。

2024年7月5日

山田車体工業株式会社

代表取締役社長 山田 和典